

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
(技術開発個別課題)
研究開発課題評価
(令和3年度実施 中間評価) 評価報告書

令和4年1月

再生医療実現拠点ネットワークプログラム(技術開発個別課題)

課題評価委員会

－ 目次 －

1. 事業の概要

2. 評価の概要

3. 各研究開発課題の評価結果

4. 評価委員一覧

1. 事業の概要

「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」では、iPS 細胞等を使った再生医療について、オールジャパン体制で研究開発を推進し、日本発の iPS 細胞技術を世界に先駆けて臨床応用することを目的としている。また、疾患発症機構の解明、創薬研究等を実施している。再生医療の実現には、生命倫理や個人情報の保護等について社会のコンセンサスを得るとともに、様々な規制をクリアする必要があるが、本事業では全体として、それらの倫理関係や規制関係に対するサポート体制を構築している。

「再生医療実現拠点ネットワークプログラム」のうち、「技術開発個別課題」では、科学技術の進展や再生医療実現拠点ネットワークプログラム内の各課題の開発状況を踏まえ、iPS 細胞等の技術を用いた再生医療等を世界に先駆けて臨床応用するにあたって、特に加速すべき技術開発テーマを抽出し、戦略的に研究開発を推進するとともに、再生医療等において臨床研究・治験を目指す研究開発、臨床研究・治験により明らかとなった課題を基礎に立ち戻って解明する研究開発も推進している。

2. 評価の概要

令和2年度に開始された以下の研究開発課題について、令和 3 年度に研究開発課題評価を実施した。国立研究開発法人日本医療研究開発機構に「再生医療実現拠点ネットワークプログラム(技術開発個別課題)課題評価委員会」を設置し、各研究開発課題について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業の運営の改善に資することを目的とし、評価を実施した。

研究開発課題名: 新生児の肺障害を修復する多能性幹細胞 (Muse 細胞) を用いた再生治療の開発

研究開発代表者: 佐藤 義朗

代表機関・役職: 名古屋大学医学部附属病院・講師


評価方法: 中間評価

なお、評価委員会においては、各研究開発課題の評価にあたり、次ページの各評価項目に基づき、総合的に評価が実施された。

評価項目

- ① 研究開発進捗状況
 - ・ 研究開発計画に対する進捗状況はどうか
- ② 研究開発成果
 - ・ 成果が着実に得られているか
 - ・ 成果は医療分野の進展に資するものであるか
 - ・ 成果は新技術の創出に資するものであるか
 - ・ 成果は社会的ニーズに対応するものであるか
 - ・ 必要な知的財産の確保がなされているか
- ③ 実施体制
 - ・ 研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織されているか
 - ・ 十分な連携体制が構築されているか
- ④ 今後の見通し
 - ・ 今後研究を進めていく上で問題点はないか
 - ・ 問題点がある場合は、研究内容等の変更が必要か
 - ・ その際にはどのように変更又は修正をすべきか
 - ・ 今後の研究開発計画は具体的で、明確な目標が設定されているか
- ⑤ 事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
 - ・ 生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守しているか
 - ・ 専門学術雑誌への発表並びに学会での講演及び発表など科学技術コミュニケーション活動（アウトリーチ活動）が図られているか
 - ・ 計画の見直しが必要か
 - ・ 中断・中止等の措置が必要か
- ⑥ 総合評価
 - ・ ①～⑤を勘案しつつこれらと別に評点を付し、総合評価をする。

3. 研究開発課題の評価結果

報告書 

4. 評価委員一覧

別紙参照 